

文教常任委員会委員会調査報告書

令和6年7月26日（金）に、神奈川県立生命の星・地球博物館において、次の事件について調査を実施したところ、その概要は別添のとおりでした。

【調査事件】

生涯学習及び文化財に関する事項について

令和7年2月14日

神奈川県議会議長 柳 下 剛 様

文教常任委員会委員長 望 月 聖 子

1 調査の概要

(1) 調査日程

令和6年7月26日（金）

(2) 調査箇所

神奈川県立生命の星・地球博物館

(3) 出席委員（計12名）

望月聖子委員長、綱嶋洋一副委員長、
田中洋次郎、細谷政幸、杉山信雄、相原しほ、青山圭一、小田貴久、脇礼子、
小野寺慎一郎、添田勝、小川久仁子の各委員

(4) 随行者

清水主事（議事課）、工藤副主幹（教育局総務室）

(5) 行程

県庁～神奈川県立生命の星・地球博物館～県庁

2 神奈川県立生命の星・地球博物館

(1) 調査目的

神奈川県立生命の星・地球博物館は、地球と生命・自然と人間がともに生きることがテーマとする自然史博物館として平成7年に開館し、今年度で30周年を迎え、30周年特別記念展「生命の星・地球博物館の30年」を開催している。

そこで、特別展をはじめとする展示の内容や、30周年を迎える中での課題等を聴取することより、今後の生涯学習及び文化財に関する事項についての委員会審査の参考に資するものとする。

(2) 教育局及び神奈川県立生命の星・地球博物館出席者

ア 教育局出席者

落合嘉朗教育局長、宮田一男教育局総務室長、信太雄一郎生涯学習部長、
伊藤聡生涯学習課長

イ 神奈川県立生命の星・地球博物館出席者

田中徳久生命の星・地球博物館館長、大河原邦治同副館長、
芳賀洋一同企画情報部長、佐藤武宏同学芸部長

(3) 委員長挨拶



(4) 教育局長挨拶

(5) 概要説明

次の内容等について、説明があった。

ア 沿革

イ 施設概要

ウ 組織構成

エ 令和6年度予算

(ア) 改修工事費について

(イ) 主な事業について

オ 事業内容

(ア) 資料の収集・整理・保管事業

(イ) 調査・研究事業

(ウ) 展示・教育普及事業

(6) 質疑応答

質 疑 先ほど御説明の中で、貯蔵品が増えてきて、この管理等が課題というお話があったが、この辺りをもう少し、課題の深掘りをさせていただきたいと思う。

今、どういう状況なのか、今後また増えていったときにどうしていくのか、その辺りはどうか。

応 答 まず、資料収集においては、基本的な理念であるコレクションポリシーというものに基づき集めている。その結果、3室ある収蔵庫内の1室が、既にオーバーフローして、仮置きをしている状況にある。最も大きな収蔵庫も、収納率が100%に近づいている。

そこで、収納スペースを確保するために、棚板を追加購入して収蔵効率を上げる、大型の積層収蔵用具に収蔵して立体的に配架する、また、床の免震化によって、より高く立体的に配置するなどの努力を重ねている。それから、小さく個別に収蔵されたものについては、大きな容器にまとめて収蔵す

るなど、工夫をしている。

質 疑 多分、これからそういったお金も今までかかってこなかったものが、運営に必要になってくるかなと思う。今、入館者を増やす努力というのは、いろいろやられていると思うが、箱根や小田原は今、インバウンドのお客様がたくさんいらっしゃると思うが、こうした外国人を入館に取り込めるような施策等、そういったものはあるのか。

応 答 当館のホームページにおいては、英語と中国語、韓国語のページに対応しているが、特段、外国人をターゲットにした広報はしていない。

質 疑 例えば、観光客が5万人来て、箱根または小田原でどこに行こうかなとなったときに、実際、外国人の方がこちらにいらしたときの対応等、その辺りはどうなのか。

応 答 総合案内があり、その中に外国語で対応できる者がいるので、その者に任せている。

それから、当館のウェブサイトではないが、例えば、トリップアドバイザーのような口コミ型の情報のウェブページなどを使って、お客さんが当館の魅力を発信してくれている。そういったところに頼っている感じである。

また、玄関口である小田原駅などで、箱根フリーパスのようなものを発売しており、当館は、そこに加入している。そうしたものをインバウンドの方々から御購入いただくことで、来やすくするような取組を行っている。

質 疑 何で聞いているかという、自分も逆に、外国に行ったときに、博物館とかに連れて行ってもらったことがあるが、そのときに、結局、言語対応が全くされておらず、何かよく分からないまま帰ってきてしまったというようなところがあった。トリップアドバイザーなど他の媒体を使って、その人たちが来やすくなるということはよいと思うが、来たときに楽しんでもらえるかどうかは、結構、大事なことかなと思っている。そもそも外国人の来場者が結構いるのかどうか、その辺りはどうなのか。

応 答 調査したところ、大体、来館者の3%くらいが外国の方で、ほとんど神奈川県の方である。

質 疑 小学生がよく遠足などでここを活用されているかなと思っていて、私も今、子供が2人いるが、両方とも小学校3年生のときに来させていただいた。すごく楽しかったという話と、もう一つ、もう1回来たいと言う。それはいいなと思う反面、もっとゆっくり見たかったのか、大体150人規模で来るので、その子たちが、どういうふう楽しんでいるのかなというの、本当に、誰か係の方がついて楽しめているのか、先生がそれぞれ説明をしているのか、その150人規模の子が、1日楽しめているのか、それともやっぱり

もうちょっと楽しみたいなというぐらいの時間になってしまっているのか、その辺りのことを詳しく教えていただきたい。

応 答 当館、5名の学習指導員がおり、小学校の校長先生を退職された方だが、その方たちが、小学生や中学生、遠足でお見えになる方にガイダンスを行っている。もともと、県内各地の小学校で勤務経験があるので、その地域に合わせて、例えば、その地域から産出した化石や地域に特徴的な植物等、そういったものを交えながらガイダンスを行っている。

また、ワークシートを用意して、見学時間が取れる学校には、そういったワークシートなどを、事前に下見の先生たちと一緒に作って対応するというようなことを行っている。

意 見 ぜひ、もっともっと学校に活用してもらうような工夫も今後していければ、私も何回も来ており、楽しいと思っているので、せっかくなので活用していただければと思う。

質 疑 資料に学芸員の人数が示されており、21名、学芸員さんがいるということだと思うが、上を見ると、動物・植物担当が6名、古生物・地球環境担当が6名ということだが、この組織図の見方が分からないので、説明をいただきたい。また、例えば、動物・植物担当だとか、古生物というところをもう少し分類すると、何分野にわたって、どういう研究がされているんだというのが分かればいいなと思って、教えていただきたい。

応 答 まず、この組織図で見ると、学芸部のほう、動物・植物担当が6名、古生物・地球環境が6名ということで、足し算しても21にならないということだが、何名かの学芸員が企画情報部のほうに籍があり、この企画普及課13名と情報資料課9名の中の内数に学芸員が含まれている。

全体としての分野の内訳だが、植物が4名いる。そのうち、菌類が1名で、いわゆる草花、普通の植物が3名。動物が全部で8名。そのうち、脊椎動物、背骨のある動物が5名で、無脊椎動物が3名。古生物は3名、地球環境が4名、それからアーカイブズといい、文書関係の資料を扱う学芸員が1名いる。館長も学芸員なので、館長を含めて、21名ということになっている。

質 疑 館長は、植物のスペシャリストだという、そこを研究なさっているということだが、例えば、この研究が、どのように県民生活に役に立っているかというのも大事な部分だと思う。

なので、何か皆さんの研究が、こういった分野において、こうやって役に立っているということがあれば、ぜひお聞きしたいと思うが、いかがか。

応 答 私は、植物の担当で、もともと植物生態学の専門だが、博物館に来て、先ほどお話が出たように、たくさんの植物標本があり、神奈川県では、前身の

県立博物館の時代から、神奈川県植物誌という、神奈川県の植物の戸籍簿みたいなものを県内の博物館や県内のボランティアの方たちとずっと作っている。今まで3冊出して、一番新しいのが2018年に出ているが、それを見ると、県民の方々が、自分の地域にどんな植物があるかというのは、分かるように出している。

それは多分、たまたま私の例なので話ができるだけだが、そういうふうにそれぞれの分野の学芸員が、そういう関係性を持って研究している。

レッドデータの調査でも、その神奈川県植物誌のデータがそのまま使われて、県内全体でどんな植物が絶滅に瀕しているかなどということにも反映されている。



(7) 展示室及びバックヤード視察



(8) 副委員長挨拶

(9) 調査結果

- 神奈川県立生命の星・地球博物館は、平成7年3月21日に一般公開を開始し、今

年度、30周年を迎える自然史系の博物館であり、49名の職員で構成されているとのことであった。

- 主な事業として、次のとおり実施しているとのことであった。
 - ・ 資料の収集・整理・保管事業を行っており、資料点数は、開館当初、約20万点であったのに対し、令和6年3月31日時点では124万5,512点と約6倍になっており、これらを適切に管理するためのスペースの確保が課題となっている。
 - ・ 学芸員は、それぞれの専門を生かした研究を県内外で行い、その成果を関係学会等で公表している。また、学術刊行物として、令和5年度は「神奈川県立博物館研究報告（自然科学）第53号」及び「神奈川自然史資料第45号」を発行した。
 - ・ 46億年にわたる地球の歴史と多様性を四つの総合展示室とジャンボブック展示室で分かりやすく展示する常設展示と、時期に応じた特別展示を行っている。
 - ・ 講演会、ワークショップ、職場体験や研修の受入れ等、教育普及事業を行っている。
- これらの事業を進めるため、令和6年度は、博物館事業費1,384万円、生物多様性保全推進費334万円、また、施設の老朽化対策の一環として電気設備や空調設備等の改修を行うための改修工事費1億5,100万円等が予算計上されているとのことであった。
- 30周年特別記念展では、これまで集めてきた資料、学術活動の証拠となった資料、過去の特別展や講座などで使用した資料を、博物館の仕事である「集める」「調べる」「伝える」の三つのコーナーに分けて展示し、同博物館の歴史を振り返る内容となっていた。展示の最後には、来場者に、同博物館が将来どのようなようになってほしいかについてのメッセージを記入してもらうコーナーが設置しており、博物館の仕事を紹介するとともに、思いを未来につなげたいという意味で、この特別展を企画したとのことであった。
- これら神奈川県立生命の星・地球博物館の展示内容や今後の課題等を調査したことにより、当常任委員会において生涯学習及び文化財に関する事項について審査をする上で、参考となった。